

## 平成30年度 第2回郡上市地域公共交通会議(会議要録)

○会議名称 平成30年度第2回郡上市地域公共交通会議

○開催日時 平成30年8月24日(金)午後1時30分～午後3時00分

○開催場所 郡上市役所 4階 大会議室

### ○協議事項

議題第1号 郡上市自主運行バス「相生線」の運行ルート変更について

議題第2号 小那比・亀尾島地区の乗合タクシーによる実証実験について

### ○報告事項

報告第1号 7月豪雨による公共交通の対応状況について

○出席委員 平岩憲政、林直樹、田中秀昭、大西春子、畑中知昭、出井建雄、馬淵公子、古田米弘、下里武司、宮内菊次、伊豆原浩二、池田喜八郎、佐々木綱行  
青木副市長(代理)、金森幹雄(代理) 清水秀樹(代理) 計16名

○欠席委員 尾藤安正、西脇洋恵、佐野みゆき、餌取賢一、三島貴文、廣中健太、水野昭人、棚瀬秀樹、古川昭文 9名

○出席者 (事務局：市長公室企画課)  
室長 日置美晴、企画課長 河合保隆、交通対策担当係長 井上裕章、主任主査 酒井義文

### 1. 開会 (司会進行：企画課長)

#### 2. あいさつ

・青木副市長

### ◆議長(副市長) 議事進行

### 3. 協議事項

議題第1号 郡上市自主運行バス「相生線」の運行ルート変更について

(説明者：企画課 井上交通対策担当係長) 資料1

#### \*質疑応答

議長 西乙原地区の協議で住民の方からの意見、要望等はあったか。

事務局 地元協議の際、住民の方はバス利用に対し意欲的であり、地区で呼びかけて乗ろうという雰囲気であった。また、地区内では蓮心寺前から八幡西中へ向かって西から東へと交通の流れがあるため、

流れに沿ったバス運行をして欲しいとの要望があり、今回の運行ルートに反映させた。バス停についてもいくつか要望があったが、国道、主要地方道以外の区間でフリー乗降を可として対応した。

また、昨年度も地域公共交通網形成計画策定時において、西乙原地区交通空白地解消に向けて、地元代表者との協議を重ねており、地元調整がスムーズに行えた。

議長 他にご意見が無ければ、原案の通り承認してよろしいか。

全委員 異議なし

## 議題第2号 小那比・亀尾島地区の乗合タクシーによる実証実験について

(説明者：企画課 酒井主任主査) **資料2**

### \* 質疑応答

議長 事業者から補足説明等をお願いする。

委員 タクシーの利用を見ると亀尾島地区の利用者は多いため、乗合タクシーの実証実験においても利用される方は見込めると思う。

委員 資料の概要に運行経費とあるが、ジャンボタクシーと中型の想定経費はいくらか。また、利用者の想定人数はどれくらいか。

事務局 タクシーの単価は決まっており、ジャンボタクシーは1時間当たり8,000円、中型は5,600円の単価になる。利用人数は小那比地区で年間320～330人の実績であるが、年々減少傾向にある。亀尾島地区で行ったアンケートでは、現在利用したい方は15人で、5年後は増加する結果となっている。

委員 道路運送法第21条の実証事業で行う運行について、申請期間である半年間は内容の変更が出来ないため、今回の協議内容で実証事業を行うこととなる。実証実験が終わった段階でその結果を踏まえて乗合許可申請をするのか判断をしていただく。乗合許可申請を行う場合は、申請から許可まで約2ヶ月必要であり、1月には許可申請を提出していただくことになるので、実証事業を延長するか、本格運行するのか1月の交通会議に諮る必要がある。

委員 実証運行の終わりにどのようなチェックをするのか、地元の皆さんとの話し合いが必要。スケジュールも含めて、実証運行を継続するのか、どのような条件だったら本格運行できるかなど地元と協議し、チェックするのに必要な数値や評価の方法を話し合う必要がある。また、事業性については事業者との協議をしておく必要がある。

議長 ご意見が無ければ、原案の通り承認してよろしいか。

全委員 異議なし

議長 本日の審議は以上とする。

○報告事項 報告第1号 7月豪雨による公共交通の対応状況について

(説明者：企画課 井上交通対策担当係長)

資料3

事務局 長良川鉄道からの補足説明をお願いします。

委員 夏休みになると鉄道好きの方に向けて、長良川鉄道フリー切符を販売しているが、7月豪雨の影響で、対前年度比で27%しか売れていない。観光列車ながらについて、7月は1日しか運行出来ず、7月のキャンセルが1,062名となった。

委員 今回の豪雨時に八幡町瀬取地区の国道を車で通過する際、長良川の水位が高く国道まであと30cm程度であったので国道事務所に連絡した。国道を止める雨量規制があるが、これは山からの土砂崩れに備えての規制だと思うが、川の水位から規制はあるのか。

委員 今の雨量規制は山からの崩壊に備えたものであり、川について規制はないが、川についても警戒しており、今回の7月豪雨時は神路地区において雨量規制区間より北側で国道を止めた。

委員 郡上市白鳥町歩岐島地内の国道の片側交互通行はいつ解除されるかの。

事務局 今は情報が入っていないが、しばらく時間がかかると思われる。

委員 長良川鉄道の美濃市駅から大矢駅間は、本格復旧まで昔ながらのタブレット利用した運行をしているが、全線昔ながらの運行方式に戻してはどうか。

○意見交換

委員 白鳥自治会長会で、スクールバスとデマンドバスを混乗し、合理的な運行ができないか話題にあった。

事務局 スクールバスを管理している学校教育課と混乗について調整を行っている。

委員 観光列車ながらについて、自分の所属の団体に貸切運行をする計画がある。一般の方は貸切運行が出来ることを知らないと思うので、自分の団体が利用する際、動画等を撮影し宣伝してもらっても良い。

委員 美並巡回バスを2日間乗ってみたが、美並から八幡間の利用者は0人で、美並町内の巡回バスは10人程利用があった。今日は台風の影響もあり、美濃市への利用が1人、美並町内の巡回も1人であった。利用者に話を伺ったところ、巡回バスが運行していることに対し、全員がありがたいと思っており、常連客は11枚綴りのチケットを利用している。この巡回バスが無くなると困る地域が美並町内で粥川地区と梅原地区の2地区ある。粥川地区は国道まで4km離れており、梅原地区も国道まで3km離れており、更に峠道で高低差がある。利用者全員、巡回バスを無くさないで欲しいとの要望があった。

委員 まめバスの台数とルートを増やして欲しいと以前お願いしたが、市の方で協議しているのか。

事務局 昨年度、赤と青ルートに加え1ルートを増設することや、八幡インター線のデマンドバスとのシミュレーションをしたが、乗り継ぎ等が必要になり使い勝手が悪くなる。今のルートを変更することにより複雑になることが懸念されるほか、台数を増やすには市の財政的な面も考慮しなければならない。再度検討する。

委員 まめバスを利用し、長良川鉄道に乗ろうとすると3分しか時間がないため、もう少し時間調整が出来ないか。

事務局 決まった時間にバスが来る今のシステム（毎時何分に来るか決まっている）は地域の皆さんに浸透している。現在の方法が良いか、毎年長良川鉄道のダイヤに合わせてバス停時刻を変更するのが良いか、どちらかになる。

委員 今の需要のままで、数年間バス事業者が運営するのは厳しい状況であり、1人でも多くバスを利用してもらい、みんなで支えていくメッセージを皆さんでつくってもらいたい。また、公共交通の使い方について、時刻表とルート図を渡すだけではなく、これを使ったらこんなところに行けると言うような、使い方ガイドンスを作成しPRしてもらいたい。

「ながら」に乗るのは移動目的でなく、楽しむ目的のように、公共交通を子供達が楽しむ目的で利用出来るような手を考えていく必要がある。

事務局 以上で第2回郡上市地域公共交通会議を終了する。

(閉会)